

2015/10/23
第78号
(27年10月号)

長野県総合教育センター通信

しののめ

〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail :kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

センターからのお知らせ

センター評議員会が開催されました・・・・・・・・・・1

「研修講座受講後アンケート 結果報告」より・・・・・・・・2

ねえ、学力って何？教えて！④・・・・・・・・・・3

センターからのお知らせ

平成27年度の評議員会が、10月1日（木）に開催されました。



◎評議に先立ち、研修講座・生徒実習の視察見学をしていただきました。



◎8名の評議員の皆様にご出席いただき活発な意見交換が行われました。

評議の概要は、センターHPにアップしましたのでご覧ください。

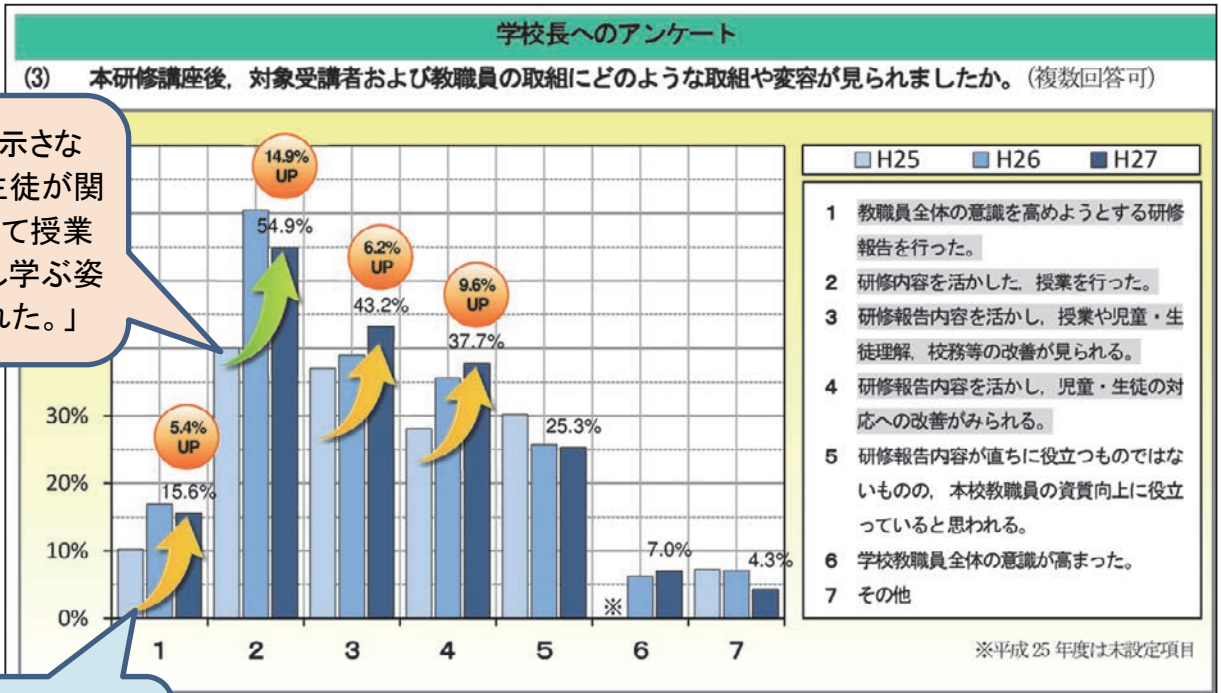
「つなぎつながら研修講座で教員、子ども、教材がつながった！」

研修講座受講後(追跡)アンケート

御協力ありがとうございました!!

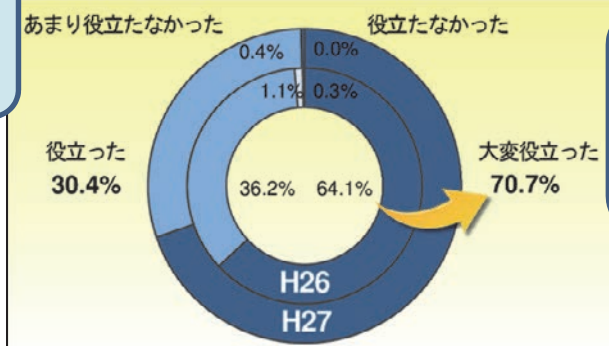
6月5日～8月31日までに実施した136講座の受講者から抽出した、265校333人のみなさんを対象に「受講後アンケート」

を実施。223校(84.2%)から回答をいただきました。その一部を御紹介します。



「興味を示さなかった生徒が関心をもって授業に参加し学ぶ姿が見られた。」

「他の職員が興味を持ち、教わる姿が見られた。」



受講者からは「大変役に立った」と回答した受講者がさらに増えました。



つなぎつながら研修講座を研修事業の重点として研修講座を行っていきました。記述部からは、研修講座の中で受講者同士がつながったことや、学校に持ち帰り内容を共有する場面で学校内の教職員同士がつながったこと、そして何より教師と子どもが授業や、教材、実験等を通してつながり、教師の授業改善や生徒理解がすすんだことが伺えます。また、研修内容は学校運営やマネジメントにも生かされ、同僚性が高まり、結果として学校力の向上につながり始めている様子も伺えます。

一方で、講座実施日から間もないアンケートであったために、子どもの学力向上にはつながっているかどうかはまだ判断できないというご意見も多くいただきました。アンケートの実施時期を含め、いただいた貴重なご意見を参考にし、より一層の研修講座の充実を図りたいと思います。



各校の校長先生・受講者の皆様、お忙しい中ご協力ありがとうございました。詳しいアンケート結果報告は、後日センターHPに掲載いたします。

ねえ、学力って何？教えて！④



トモニ先生

「ミガコ先生、社会科でつける学力ってどんなものだと考えていますか？」
 「教科書の太字を覚えさせても、生きていく上では必要ないんじゃないかと最近考えているんだけど。」



ミガコ先生

「社会科は『全国学力・学習状況調査』が行われていないので、その結果を受けて授業改善につなげることはできないですよね？ いったい、社会科では、どのように授業改善を進め、学力向上を図っていけばいいんだろう？」



社会科でも言語活動の充実がいわれていて、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成するための授業改善が求められていますよね。

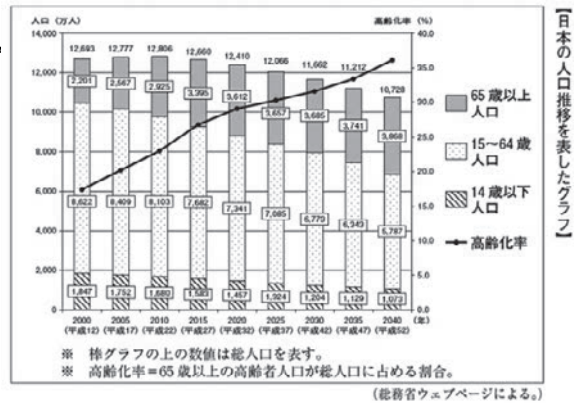
社会科 編

社会的事象に関する様々な情報をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりするといった、情報を分析・評価し、論述することが具体的に挙げられていますよね。



つなぐ先生

授業改善においては、言語活動に着目することが大切ですよね。言語活動は、すべての教科領域で重視されるものです。右の資料を見てください。



この資料は、地理や公民の学習で日本の人口構成の変化を考える時によく扱う資料ですね。日本では少子高齢社会が急速に進んでいるということを教えていますね。



この資料は、平成 27 年度全国学力・学習状況調査の中学校国語の調査問題において、A問題とB問題の両方で用いられたものです。A問題については、資料中に棒グラフで表された 65 歳以上の人口変化について、他の年齢層の変化を読み取った記述を踏まえて短文で表現させるもの。B問題については、この資料と「ウェブページの記事」「雑誌の記事の一部」の中から二点を選び、2020 年の日本はどのような社会になっているかの予想と、その社会にどのように関わっていききたいかの考えを長文で表現させるものでしたね。

この問題は社会科で扱う問題と同じですよ。でも実際授業では、時間を確保して資料を読み取らせることよりも、少子高齢社会の用語の理解が中心になってしまい、社会参画について自分の考えを書かせる授業をしていなかったかもしれません。



これらの問題の解答に当たっては、国語科で育成する表現力とともに、個々のデータと社会的な影響を関連付ける社会科や、グラフ自体を読み取る算数、数学科などの学習も前提となりますよね。A問題では、多様な情報の中から、必要なデータに着目し、必要な情報を読み取る力も必要となりますね。B問題では、資料中の個々のデータを総合的、俯瞰的な視点でとらえて情報として読み取り、それを他の資料から得られた情報と関連付けるとともに、自らの考えの論拠とする力も必要となりますよね。



「全国学力・学習状況調査」では、社会科でつける力もつながるということですね。資料から少子高齢社会という用語を理解するだけでなく、少子高齢社会とはどのような社会なのかを資料を基に、思考、判断、表現する授業改善を進めていくことが重要なんです。

このように社会科では、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを一層充実させる授業改善が重要なんです。



21 世紀を生き抜く子どもたちには、教科を横断して取り組む汎用的な学力が必要だといわれています。社会科においても、「何を覚えたか」ではなく、「どのような力が身に付いたか」という資質・能力を育成していくことが重要になります。社会科も「全国学力・学習状況調査」に大きく関係した教科です。社会科でつける力を明確にして、授業改善を進めていくことが大切です。